

J R東日本労働組合

秋田ジャーナル

J R東日本労働組合

秋田地方本部

発行者 ~ 佐藤 俊樹

編集者 ~ 教 宣 部

秋田市中通6丁目7-9秋田県畜産ビル1F

TEL 835-4040 FAX 835-4060



団体交渉終了

～秋田車両センター在来線仕業検査業務委託について～

1. 在来線仕業検査以外の業務委託は？

- コンプレッサー点検
- 特休札の掲出撤去
- 全在来線、起電停止時殺車対応
- その他依頼業務

2. 仕業での摩耗品、部品交換はどこで行う？

- 基本は委託会社での対応。現在調整中

3. 作業ダイヤ外の臨時仕業はどこで行う？

- 基本在来線はすべて委託会社
- 夜間はJR対応を検討、運用変更や在来線Gで行うことも視野

4. 今後の秋田駅SE業務の体制は？

- 在来線メインで対応するが、業務の見直しを検討
- 教育は随時必要により実施

5. 今後の在来線Gの体制は？

- 車セにて効率的な業務を検討
- 冬期起電停止対応は運輸区で行う

6. 今後の新幹線Gの体制は？

- 交検、保全、仕業を全員で行う。女性社員についての設備も問題ない
- 当日の仕業担当が交検を行うこともある。インフルエンザ等のやむを得ない場合を想定

地方本部は10月29日、申1号「秋田車両センター在来線仕業検査業務委託について」支社と団体交渉を行った。委託まで残り1ヶ月となる団体交渉であるにも関わらず、社員説明会と同様「**検討中**」、「**調整中**」とする回答が目立ち、委託ありきの施策であると言える。委託化により効率化が進むのであれば、JR本体、委託会社双方で働く社員への負担ばかりが増えて働き甲斐や仕事への熱意が損失しかねない。

交検や仕業といった決まった人員が必要である作業にも関わらず、やむを得ないとして業務の変更もあるとしている。また、夜間の臨時仕業はJR側で行うと明言している。今後の仕業では、新幹線Gが担当としていることから、在来線を担当したことがない人が泊まることとなる。このような安全を担保することができないあいまいな体制としてよいものなのか。

上記委託後の体制についてわかるように、これまで以上に社員の多能化が求められている。本当に「車両のプロ」へとつながるのか、その道のプロがいなくなってしまうことではないのか。何でもできるということは、個別の業務に長けた社員がいなくなるということ、果たしてそれが車両のプロがいるという職場になるのか。多能化は将来性があるかもしれないが、今働いている社員に負担を強いることとなっているのも現状である。これから現場での実態把握と、そこで働く組合員や社員の声をしっかりと吸い上げ、働きやすい職場にしていかなければならない。

第7回横手連合分会定期大会開催！

11月9日、横手市「わいわいプラザ」にて第7回横手連合分会定期大会が開催された。地本からは佐藤孝昭書記長、藤田準三執行委員の2名が参加し、今後の体制や組織拡大について様々な議論がされた。新横手連合分会新執行委員長には佐藤弘亮が選出され、団結ガンバロー三唱にて参加者全員の意志統一がされた。

